

No.29-8 平成 29年 7月 25日	<h1>漁況情報・浜の話題</h1>	神奈川県水産技術センター 企画資源部 046-882-2489 相模湾試験場 0465-23-8531
--------------------------	--------------------	---

● 漁況情報

- 7月に入って、藤沢市漁協では湘南はまぐり（チョウセンハマグリ）に加えて、ながらみ（ダンバイキサゴ）が好漁となっています。同漁協所属の漁業者は、月に5から6回貝桁びき網漁を操業し、1日当たり湘南はまぐりは200kg、ながらみは100kg前後獲れるそうです。湘南はまぐりについては密漁も多いそうで、同漁協では密漁対策の一環として、密漁防止を啓発するのぼりを作成し、辻堂から鵠沼海岸に掲示すると共に、海上保安庁と連携して、密漁取り締まりを強化しています。



藤沢市漁協が作成した密漁防止を啓発するのぼり

- 7月13日、長井町漁協に所属する長井定置網でキハダが2.5トン漁獲されました。100kgを超えるサイズのキハダも水揚げされ、浜は活気に沸いていました。また、その翌日の7月14日には佐島で同じくキハダが5トン水揚げされたそうです。

● 浜の話題

- 6月20日、大磯港で、しらすや地魚料理についてテレビ番組の取材がありました。当日訪れたタレントは、ふじ丸さんの湘南しらす天日干し加工風景を見たあと、大磯二宮漁協の「めしや 大磯港」で、黄金アジを始めとした、定置網の朝どれ地魚を味わったそうです。当日の様子は、7月15日にフジテレビ「ぶらぶらサタデー」で放映されました。
- 6月26日、（一財）横須賀西部水産振興事業団は、長井町漁協及び横須賀市大楠漁協の協力のもと、両漁協地先にそれぞれ5千尾ずつのトラフグ種苗を放流しました。トラフグ種苗が順調に成長し、資源が増加することが期待されます。
- 6月29日と7月12日、水産技術センターは横須賀市東部漁協北下浦支所の協力のもと、北下浦漁港内にトラフグ種苗（全長4cm）合計2万1千尾を放流しました。漁港内は海底が砂地でアマモが繁茂し、付近の河川から淡水の流入があるため、トラフグ種苗放流の好適地となっています。
- 6月29日、大磯二宮漁協で合併後、初の総会が開催されました。当日は役員改選があり、大磯地区から4名、二宮地区から3名が就任しました。組合長には大磯地区の加藤氏が、副組合長には二宮地区の徳江氏が選出され、新しい布陣で同漁協を運営して行くことになりました。

- 7月5日、水産技術センターは横浜市漁協柴支所の協力のもと、金沢木材港（横浜ベイサイドマリーナ横）にトラフグ種苗（全長4cm）8千5百尾を放流しました。ここはアマモが繁茂し、トラフグ種苗放流の好適地となっています。
- 7月6日、水産技術センターは横須賀市大楠漁協の協力のもと、トラフグ種苗（全長4cm）8千8百尾を久留和漁港地先の砂浜へ放流しました。放流されたトラフグ種苗が順調に成長することが望めます。
- 7月8日、藤沢市漁協で「湘南はまぐり・ながらみ直売所オープニング式」が開催されました。当日は、県・藤沢市等の関係者が集まり、盛大な式典となりました。用意した湘南はまぐり800個は、好評の内に完売となりました。当日の様子は新聞掲載のほか、テレビでも放映され、漁協によると反響も大きいそうです。同漁協葉山組合長は、ブランド化した「湘南はまぐり」の蓄養施設を整備できたので、今後は湘南しらすに次ぐ新たな名産品として定着するよう、地元料理店等への出荷を増やして行きたいと話していました。



藤沢市漁協「湘南はまぐり・ながらみ直売所」 新たに整備された施設で蓄養される「湘南はまぐり」

- 平塚市漁協は、7月7日から9日にかけて開催された「第67回湘南ひらつか七たま祭り」に出店しました。当日は、平塚の漁業PRキャラクター「ひらつかタマ三郎」が、プライドフィッシュ「平塚のシイラ」のフライの串揚げと燻製製品をPR直売し、好評の内に完売したそうです。
- 7月10日、平塚市漁協は、ヒラメの種苗（全長9cm前後）を放流しました。同漁協が1万尾、同漁協の定置網漁業者が資源管理計画の取組みとして1千6百5十尾、（公財）神奈川県栽培漁業協会が5千尾の総計1万6千6百5十尾を放流しました。当日は、平塚市立港小学校5年生が訪れ、栽培漁業協会の今井専務理事からヒラメについての説明を聞いた後、地元遊漁船（庄三郎丸、庄治郎丸、浅八丸、豊漁丸）の4隻に乗り込んで、放流体験をしたそうです。
- 7月11日、水産技術センターは東京湾の漁港を巡りながら赤潮の発生状況を調査しました。原因プランクトンは *Prorocentrum micans*（ツノフタヒゲムシ）で、普通に見られる種です。魚介類への直接の害はありませんが、濃密に分布する表層付近では酸素が少なくなり、魚介類が弱ってしまうことがあります。地域別では、横浜市の地先では赤潮が見られましたが、横須賀市の地先では見られませんでした。しかし、横須賀市地先でも採水して検鏡すると、このプランクトンが最も多く確認できました。漁業者は、この1週間前には横須賀市地先でも赤潮が

見られたが、南風でなくなった、と話していました。

- 7月12日、水産技術センターは横須賀市東部漁協鴨居支所の協力のもと、鴨居漁港内（和田川河口）にトラフグ種苗（全長4cm）6千5百尾を放流しました。海底が砂地で付近の河川から淡水の流入があるため、トラフグ種苗放流の好適地となっています。
- 7月13日、小田原市漁協青年部は、急速冷凍装置を作成する県内企業と海洋研究開発機構（JAMSTEC）を視察しました。冷凍装置の視察では、最先端の冷凍技術について詳しい説明を受けました。JAMSTECでは、普段なかなか見ることの出来ない大型ROV（遠隔操作型無人潜水機）や無人巡行探査機の見学・説明を受け海洋探査への理解を深めました。



大型ROVの説明を受ける青年部員

- 7月13日、小田原市産地協議会は小田原新港の荷さばき施設内で、今後活用を予定する活魚水槽でのサザエ蓄養試験を開始しました。水槽内で短期蓄養試験を行うことで、実際に収容可能な量や個体数の把握、日々の水質変化などの情報を収集し、実用化に向けた取り組みを行っています。



サザエ蓄養中の活魚水槽

- 7月13日、長井町漁協、（一財）横須賀西部水産振興事業団、（公財）神奈川県栽培漁業協会は共同で、ヒラメ種苗（全長9cm前後）2万1千尾を同漁協地先に放流しました。放流にあたっては、地元の長井小学校4年生の児童も参加し、栽培漁業について勉強する良い機会となりました。
- 7月13日、横須賀市大楠漁協、（一財）横須賀西部水産振興事業団、（公財）神奈川県栽培漁業協会は共同で、ヒラメ種苗（全長9cm前後）1万2千5百尾を同漁協地先に放流しました。放流後、2年で約1kgに成長するそうです。

- 7月15日、千葉県の本更津ベイプラザホテルで東京内湾小型機船底びき網漁業者交流会が開催されました。禁漁区等を取り決めるとともに、互いに交流を持つことを目的に開催されています。さらに、千葉県水産総合研究センターから貧酸素、赤潮、マコガレイ、トラフグに関する話題提供がありました。来年は、神奈川県で開催予定です。